

第6回浜松市未来デザイン会議 次第

日時：平成26年7月26日(土)午後2時00分から

場所：浜松市役所本館8階 全員協議会室

- 1 開会
- 2 策定スケジュールについて…【資料2】
- 3 未来ビジョン(基本構想)パブリック・コメント案について…【資料3】
- 4 第1次推進プラン(基本計画)パブリック・コメント案について…【資料4】
- 5 閉会

第6回浜松市未来デザイン会議 配付資料一覧

資料 1・・・浜松市未来デザイン会議 委員名簿

資料 2・・・新・総合計画策定スケジュール

資料 3・・・浜松市総合計画基本構想 浜松市未来ビジョン(案)

資料 4・・・浜松市総合計画基本計画 浜松市未来ビジョン第1次推進プラン(案)

参考資料 1・・・計画体系図

参考資料 2・・・数値目標

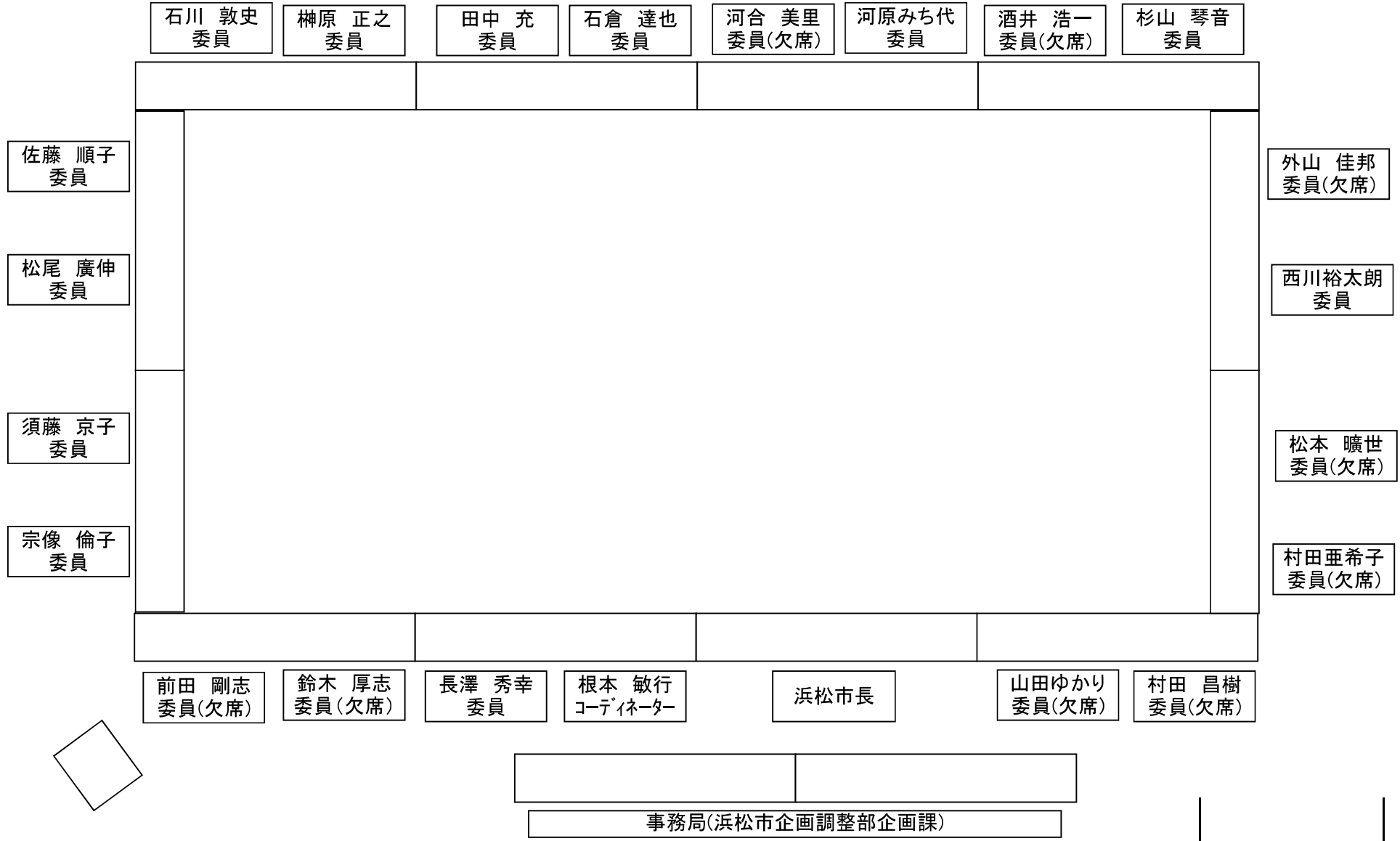
- ・ 第5回浜松市未来デザイン会議 議事録
- ・ 第7回浜松市未来デザイン会議 開催案内

浜松市未来デザイン会議 委員名簿

(敬称略)

	氏 名	所 属 等
座長	鈴木 康友	浜松市長
有識者委員 コーディネーター	根本 敏行	静岡文化芸術大学 文化政策学部長
有識者委員	長澤 秀幸	浜松商工会議所 産業振興部経営支援課 係長
有識者委員	鈴木 厚志	京丸園株式会社 代表取締役
有識者委員	前田 剛志	TENKOMORI (天竜これからの森を考える会)
有識者委員	宗像 倫子	聖隷浜松病院 地域連携サービスセンター在宅連携担当 係長
有識者委員	須藤 京子	NPO法人浜松外国人子ども教育支援協会 理事長
有識者委員	松尾 廣伸	静岡大学大学院 工学研究科電気電子工学専攻 助教
有識者委員	佐藤 順子	聖隷クリストファー大学 社会福祉学部 准教授
有識者委員	石川 敦史	なかよし第2保育園 園長
有識者委員	榊原 正之	遠州鉄道株式会社 運輸営業部運輸営業課 課長
有識者委員	田中 充	浜松市自治会連合会 副会長
公募委員	石倉 達也	静岡文化芸術大学 学生
公募委員	河合 美里	浜松学院大学 学生
公募委員	河原みち代	みらいネット浜松 代表
公募委員	酒井 浩一	浜松ホトニクス株式会社 開発本部
公募委員	杉山 琴音	静岡文化芸術大学 学生
公募委員	外山 佳邦	株式会社55634 代表取締役
公募委員	西川裕太郎	会社員
公募委員	松本 曠世	静岡大学 工学部 非常勤講師
公募委員	村田亜希子	会社員
公募委員	村田 昌樹	OMソーラー株式会社
公募委員	山田ゆかり	静岡大学 学生

浜松市未来デザイン会議 座席表



【平成 26 年度】新・総合計画策定スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
議会		<ul style="list-style-type: none"> ●特別委員会(7) ・基本構想について 	<ul style="list-style-type: none"> ●特別委員会(4) ・第5回策定委員会を受けた議論 ・基本構想(案) ・基本計画(案) 		<ul style="list-style-type: none"> ●特別委員会(12) ・第6回策定委員会を受けた議論 ・パブリック・コメント案 			<ul style="list-style-type: none"> ●特別委員会 ・第7回策定委員会を受けた議論 ・最終確認 	<ul style="list-style-type: none"> ●議案審議 	<ul style="list-style-type: none"> ●議決 		
未来デザイン会議		<ul style="list-style-type: none"> ●第5回(24) ・基本構想 ・基本計画(案) 	<ul style="list-style-type: none"> (意見交換会)(17) ・基本計画(案) 	<ul style="list-style-type: none"> ●第6回(26) ・パブリック・コメント案 			<ul style="list-style-type: none"> ●第7回(25) ・最終確認 					
庁内ワーキング	<ul style="list-style-type: none"> ●第7回(24) ・基本計画(案)について 	<ul style="list-style-type: none"> (策定委員会傍聴) 		<ul style="list-style-type: none"> ●第8回(1) ・基本計画 <ul style="list-style-type: none"> (策定委員会傍聴) 			<ul style="list-style-type: none"> ●第9回 ・最終確認 <ul style="list-style-type: none"> (策定委員会傍聴) 					
基礎調査					<ul style="list-style-type: none"> ◎パブリック・コメント実施(14~9/12) <ul style="list-style-type: none"> ◎区協議会 ・諮問 		<ul style="list-style-type: none"> ◎パブリック・コメント結果公表 <ul style="list-style-type: none"> ◎基本構想案確定 ◎基本計画案確定 			<ul style="list-style-type: none"> ◎印刷、校正 	<ul style="list-style-type: none"> ◎区協議会 ・最終報告 	<ul style="list-style-type: none"> ◎関係者送付

【平成 25 年度】新・総合計画策定スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
議会		●特別委員会(31) ・策定方針 ・人口推計結果報告	●特別委員会(14) ・策定方針 ・人口推計結果報告		●特別委員会(23) ・策定委員の確認 ・市民インタビュー中間報告		●特別委員会(8) ・第1回策定委員会を受けた議論	●特別委員会(13) ・第2回策定委員会を受けた議論 ◎特別委員会への意見照会(20)			●特別委員会(4) ・第3回策定委員会を受けた議論 ・基本構想(案) ◎特別委員会への意見照会	●特別委員会(24) ・第4回策定委員会を受けた議論 ・基本構想(案)
未来デザイン会議		(公募開始) ・広報はままつ ・HP ・大学等に依頼 (5月31日㊞)	(公募委員審査) ・書類審査	(公募委員審査) ・面接審査	(有識者委員調整)	●第1回(29) ・策定方針 ・人口推計結果報告 ・未来の理想への思い	(宿題など) ・未来の理想の姿のイメージ検討	●第2回(2) ・未来の理想の姿 ・市民インタビュー結果 ・議会からの意見 ・基本構想について (意見交換会)(28) ・未来の理想の姿 ・基本構想(案)	(意見交換会)(16) ・市民インタビュー、議会の意見反映 ・未来の理想の姿 ・基本構想(案)	(意見交換会)(14) ・市民インタビュー、議会の意見反映 ・未来の理想の姿 ・基本構想(案) ●第3回(26) ・市民意識調査結果 ・議会からの意見 ・未来の理想の姿 ・基本構想(案)	(宿題など) ・基本構想(案)の修正意見	●第4回(15) ・議会からの意見 ・市民意識調査結果 ・基本構想(案) ・基本計画について ・来年度について
庁内ワーキング	●第1回(25) ・策定方針 ・市民インタビュー ・策定委員会		●第2回(3) ・市民インタビュー中間報告 ・個別計画との整合について			(策定委員会傍聴)	●第3回(10) ・策定委員会の意見確認 ・市民インタビュー結果 ・基本構想について ・基本計画準備 ・政策レポート作成	(策定委員会傍聴) ●第4回(12) ・策定委員会の意見確認 ・基本構想について ・基本計画準備 (意見交換会参加)	(意見交換会参加)	(政策レポート修正) (策定委員会傍聴)		●第6回(7) ・基本計画について ・政策レポートまとめ (策定委員会傍聴)
基礎調査	◎人口推計確定	◎市民インタビュー ・名簿作成 ・対象者交渉	◎市民インタビュー開始 ◎市民意識調査準備	(市民インタビュー) ◎市民意識調査委託		◎市民意識調査開始 ・ビッグデータの活用 ・市民の声システムの活用 ・市民インタビューの活用				◎市民意識調査 ・中間報告書作成		◎市民意識調査 ・完了 ・最終報告書

資料 3

Vol.13

浜松市総合計画 基本構想

浜松市未来ビジョン

(案)

目 次

都市の将来像	1
市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』 ・技術も文化も国際色豊かなクリエイティブシティ ・小さな歯車が重なって大きな‘こと’を動かす ・新しさを生む伝統を未来へつなぐ	…[創造都市] …[市民協働] …[ひとつづくり]
1 ダースの未来（理想の姿）	3
01 つくる【創る】	…[産業・文化]
・‘ものづくり’と‘文化’で感動 ・‘うまい’で感動 ・他にはない‘ウリ’で感動	
02 たかめる【高める】	…[農林水産業]
・[大地の恵み]×[ものづくり産業]×[ICT] ・[森の恵み]×[デザイン]×[循環] ・[海や川の恵み]×[ブランド]×[高い]	
03 いかす【活かす】	…[エネルギー]
・地の利を活かしたエネルギー ・無駄を省いたエネルギー ・自ら生み出し、賢く使うエネルギー	
04 めぐらす【巡らす】	…[環境]
・豊かな自然と共存する暮らし ・世界が羨望する豊富な水資源 ・1人当たりのごみ排出量は減少	
05 つなぐ【繋ぐ】	…[多様性]
・「まちなか」は、創造都市・浜松の顔 ・ほどよい田舎暮らしができる「中山間地域」	
06 みとめあう【認め合う】	…[多文化共生]
・多文化共生が国際的な人財をつくる ・心の国境を感じさせない都市	
07 ささえあう【支え合う】	…[安全・安心]
・支え合いがあるから安心 ・つながりがあるから安心 ・充実した医療体制だから安心	
08 はぐくむ【育む】	…[子育て・教育]
・子育ての達成感を地域でシェア ・地域の見守りで出生率は上向き ・世界に誇る浜松育ち	
09 みのる【実る】	…[老い方]
・自分らしく自立したカッコいい老い方 ・いつまでも快適で質の高い生活を ・長寿が喜ばれる世の中へ	
10 はたらく【働く】	…[働き方]
・働くことにチャレンジ ・働くことをサポート ・働きやすい環境を整備	
11 かえる【変える】	…[住まい方]
・住まい方を変える ・居住エリアを変える ・乗り方を変える ・公共施設を変える	
12 むすぶ【結ぶ】	…[情報社会]
・働き方に ICT ・学び方に ICT ・暮らしに ICT ・遊びに ICT	

市民協働で築く 『未来へかがやく創造都市・浜松』

未来の浜松をつくるのは、私たち市民です。

私たちは、2045年を見据えて、「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』を「都市の将来像」に掲げます。

私たちは、世界に誇る技術と文化を有する都市を受け継ぎました。県庁所在地でもなく、大都市近郊でもない一つの‘まち’が、ものづくりを中心に自立的な発展を遂げ、政令指定都市へと移行できたのは、先人の高い創造性とたゆみない努力、何事にも果敢に挑戦する市民意識のたまものです。

私たちは、このすばらしい都市と精神を次代に引き継ぐため、長期的な展望に立って、課題を認識した上で、希望に満ちた未来を創造します。

以下に、30年後（1世代先）の理想の姿を示し、「浜松市未来ビジョン」とします。

——技術も文化も国際色豊かなクリエイティブシティ【創造都市】——

浜松はクリエイティブシティとして世界に認められています。地域固有の文化や資源を活かした創造的な活動が活発に行われ、新しい価値や文化、産業が次々と創出され、私たちの暮らしの質を高めています。

産業面では、先人たちの‘やらまいか精神’が受け継がれ、新しいものを創り、新しいことに挑戦しています。多種多様な企業が次々と生まれ、イノベーションの連鎖が起きています。ベンチャー企業などのスモールビジネスも好調で、建築や商工業デザインのクリエイターが活発に行動しています。

玄関口となる‘まちなか’では、洗練された文化が感じられ、多くの人々に心地よさを提供しています。屋外のコンサートによってメロディが響き渡り、駅前広場などの公共空間では、芸術性の高い絵画・オブジェなどを見て楽しむことができます。音楽を中心に、創造性豊かな人財の育成が行われており、子どもたちから芸術に触れることによって浜松から巣立った音楽家・文化人が世界を舞台に活躍しています。アクトシティで開かれるクラシックやジャズなど様々なジャンルの演奏会、中山間地域に受け継がれる伝統芸能は私たちに感動を与えてくれます。広大な市域に広がる多様な文化が相互につながり、歴史・伝統を脈々と引き継いでいます。とりわけ、浜松国際ピアノコンクールは、権威ある音楽イベントとして全世界に認められ、「音楽の都・浜松」を象徴する存在となっています。

物心両面で暮らしの豊かさが高まる中、多くの外国人もまた幸せに暮らしています。日本人市民と外国人市民がお互いの文化や習慣の違いを認め合い、共に生きるまちづくりを

進めています。日本一外国人が暮らしやすい都市という評価を得て、情報や資金が世界中から集まるため、新しい価値が生まれています。さらに、質の高い教育を受けた子どもたちは、世界を舞台に活躍しており、クリエイティブシティの国際色を高める重要な人財になっています。

——小さな歯車が重なって大きな‘こと’を動かす【市民協働】——

浜松を創造する人財は、老若男女すべての市民です。日々の生活を送る上で、対等な立場で支え合い、市民主体によるまちづくりを進めています。また、企業は、地域社会における責任を理解し、社会貢献活動に取り組み、NPO 法人をはじめとした市民活動団体も、経済的に自立して活動しています。こうした多様な市民協働の担い手は、お互いに顔を合わせ、時には活発な意見交換を行い、時には笑い合いながら信頼関係を強めています。

浜松まつりや地域の祭り、伝統芸能は、歴史ある大切な文化として次世代に引き継がれています。年齢や職業、国籍が異なる人同士が仲間になり、地域コミュニティの活動を通して、地域の活性化に貢献しています。

生活基盤については、居住エリアの集約が徐々に進行し、公共インフラの規模が縮小され、将来への負担も抑えられています。ライフステージに応じて、都市部から中山間地域まで最適な場所を選択し、日々の暮らしを楽しんでいます。

こうしたまちづくりは、移動や消費にかかる地球環境への負荷も軽減しています。人が生きるために必要な水や自然環境について、将来にわたって守り続けることの大切さを子どものころから理解し、大自然からの豊かな恵みを循環させるため、森林や河川、海、湖沼を守る取り組みも、協働で行われています。

——新しさを生む伝統を未来へつなぐ【ひとづくり】——

浜松は人財が一番の誇りです。これは、子どもたちに対して、家庭・学校・地域で、いっぱい愛情を注ぎ、豊かな心と社会における規範意識、社会貢献への意欲をはぐくんでいるからです。自ら人間力を高めた人財が、誇りを持って浜松を支えています。

また、先人たちの技と知恵が伝承されています。産業面では、ものづくり産業の伝統の技が活かされ、優れた技能を持つ人財が、付加価値や生産性の高い産業を成長させています。こうした成長産業への人財や資金の集中とともに、若い世代に加えて、女性や高齢の世代の雇用を大幅に拡大させたことによって、地域経済は順調に推移しています。さらに市民活動でも、長年地域で生きてきた先輩から多くの知恵を若い世代が受け継ぎながら、浜松をより良くしています。

浜松には、都市部から中山間地域まで、全国に類を見ない多様性があります。こうした多様性を活かして、‘ヒト’を育て、‘モノ’をつくり、‘コト’（文化）を創造することで消費活動を活発化させています。‘ヒト’‘モノ’‘コト’を循環させることによって、新しい価値を生み出す伝統が将来につながっています。

以下に、浜松の理想の姿を構成する「1 ダースの未来」を描きました。私たち浜松市民は、希望に満ちた未来に向けて挑戦します。

つくる【創る】

「見たこともない」感動をつくる。

—— ‘ものづくり’ と ‘文化’ で感動——

浜松は、発展し続ける都市です。機能からデザイン、サービス、また、観光や文化芸術に至るまで「見たこともない」と驚かせる‘モノ’や‘コト’があり、私たちの生活の一部にさえも人を惹きつける魅力が備わっています。

ものづくり分野では、技術研究へのひたむきな情熱と新しいものに挑むチャレンジ精神が「オンリーワン技術」を生み、脈々と受け継がれながら常に革新され、新たな産業の糧となっています。アイデアを実現するために技術力を高め、技術力が高まることで新しいアイデアが生まれるといった連鎖が起きています。こうして高い技術力で不可能を可能にする浜松発のイノベーションが海外にも広がり、新しい市場も開拓され、世界経済を支えています。

文化芸術分野でも、新鋭のミュージシャンやアーティスト、クリエイターが創作活動を繰り広げ、私たちに感動を与えています。また、音楽を中心とした多様な文化が新たな価値を生み出し、クリエイティブ産業として成長を遂げています。

浜松で認められることが、世界で認められる近道です。世界からたくさんの起業家や技術者、アーティストやクリエイターが集まり、私たちが、オール浜松で彼らのチャレンジ精神を後押ししています。

—— ‘うまい’ で感動——

世界からの来訪者が多いため、商業にもビジネスチャンスが生まれています。浜松産の農林水産物は、安全とおいしきで勝負し、ここでしか手に入らない逸品を取りそろえた店舗が軒を連ねています。腕の立つ著名な料理人も多く、世界の食通が一度は訪れたい店としてあげる飲食店も店を構えています。浜松産を食べたいという、訪れる人の思いを実現することで、満足度が高まり、家族や友人を連れて再び訪れています。もちろん、私たちもリピーターです。店舗同士も競い合い、時には協力して、あたたかいおもてなしが来店客を満足させています。

—— 他にはない ‘ウリ’ で感動——

大自然の恵みを体感できる中山間地域では、農作物の収穫、蕎麦打ち、森林の枝払いなどをはじめとした体験型の観光が人気です。首都圏などからの観光客も増え、顔の見えるあたたかい結びつきが居心地の良さにつながり、体験者には、「もうひとつのじいじ、ばあばんち」として親しまれています。多くのリピーターが集まり、中には移住した人も見られます。

このほか、地域ごとの伝統行事、浜名湖や遠州灘におけるマリンスポーツ、外国人市民が営む店舗などが‘ウリ’です。私たちも、休みの日には、市内で余暇を楽しみます。

他にはない‘ウリ’を活かしたトップレベルの発信力で多くの人を呼び込んでいます。

たかめる【高める】

自然の恵み×浜松スパイス＝付加価値∞。

——[大地の恵み]×[ものづくり産業]×[ICT]——

浜松の農林水産業は、三方原を中心に広がる肥沃な台地、浜名湖や遠州灘の水産資源、北遠地域に広がる森林など、多様な自然環境を最大限に活用し、特色ある産品が豊富に存在し、全国的にも高い産出額を誇っています。また、経営感覚を身につけた事業者が、製造業や観光、医療、福祉などとの連携により、植物工場の設置や新しいサービスへの転換、光技術などの応用を進めています。

農業分野では、大規模農家から小規模農家まで、バランス良く発展しています。効率性を重視した生産工程で安価な外国産品と対等に勝負することもあれば、手間を惜しまず、世界中の高級レストランから注文が入る高品質な農産物を生産することもあります。成功の背景には、まちなかに住む人でも、サラリーマンであっても、農業を学ぶ環境が整えられたことが挙げられます。これまでの「食べる＝消費する」だけの立場から、多くの市民が「つくる＝生産する」の視点を有することに加え、ICT分野の技術士やマーケティングを行うデータサイエンティストなどの専門家が農業に関心を持ち、経営に関わったり、実際に畑を耕したりすることで、健康や福祉などの分野へと結びつけています。

——[森の恵み]×[デザイン]×[循環]——

林業分野では、植林、伐採の計画的なサイクルのもと、効率よく材木を出荷する体制が整い、「Tenryu-zai」は世界に通用するブランドとなっています。地元のクリエイターとの結びつきから、デザイン性の高い家具や玩具などに加工され、全国に広く流通することで6次産業化も進んでいます。未利用間伐材もバイオマスの定着により、燃料として余すところなく利用されており、環境保全を兼ねながら収益をあげるサイクルは、全国のモデルとなっています。また、多くの建物には「Tenryu-zai」が使われています。

子どものころから森林へ足を運ぶことによって、山を身近に感じ、「命の源である水・水の源である山」としての価値に多くの人気が付きました。この結果、生活を守る林業を誇りある職業と感じる人が増え、中山間地域に移住する人も増加しています。

——[海や川の恵み]×[ブランド]×[商い]——

水産業分野では、海や川、湖での資源を守り育てる漁業が安定的な産業として定着し、船具の改良や水産加工業、流通業の発展とともに、私たちの食卓に安価でおいしい食材を提供しています。また、漁獲の安定により、ウナギやトラフグ、クルマエビ、ノコギリガザミといった特色ある水産資源は、地元の料理店では産地ならではの看板メニューとして人気を呼び、浜松ブランドは高級料理店からも注文が絶えない食材になっています。

さらに、魚介の孵化や育成技術の向上は、商業的な栽培漁業や養殖業を活性化しているほか、市民が参加する放流活動など水辺の環境を自ら保全する取り組みを充実させています。資源豊かな川辺でアユ釣りなどのレジャーを楽しむ人や、浜名湖でアサリやハマグリなどの潮干狩りなどのレジャーに訪れる観光客の増加が地域の賑わいを創出しています。

いかす【活かす】

日当たり良好、未来に無駄なし。

——地の利を活かしたエネルギー——

浜松は、地の利を最大限に活用した「再生可能エネルギー」の導入が進んでいます。

日照時間は全国トップクラス。ほとんどの住宅や工場、公共施設などには、太陽光をエネルギーに変える屋根や壁面が備わっています。さらに、ものづくり産業の技術力によって、研究開発が継続的に行われ、太陽光発電のエネルギー効率が大幅に向上するなど、再生可能エネルギーに関する技術は大幅に進歩しています。

冷たい季節風でしかなかった遠州のからっ風も、今では、風力発電設備で電気に変換され、快適な住まいを提供してくれています。

豊富なバイオマス資源は、浜松の地域振興にも大きく寄与しています。中山間地域の林業に活気を取り戻す一因となった木質バイオマス発電に加え、私たちから排出された生ごみをエネルギーに変えるバイオガス発電も稼働しています。

こうした取り組みにより、再生可能エネルギーによる市民1人当たりの発電量が日本一になるとともに、多くの市民が普段使用する電力に再生可能エネルギーを選択しています。

また、再生可能エネルギーが普及する中で、地球環境への負荷が最小限に抑えられています。

——無駄を省いたエネルギー——

1人当たりのエネルギー使用量は、30年前と比較すると大幅に減少しています。

それは、住宅や工場、公共施設など、すべての施設が省エネルギーに取り組むとともに、エネルギーを創る技術だけでなく、エネルギーの効率性を高める技術も向上したからです。

私たちが暮らす住宅は、高气密・高断熱化やエネルギーを無駄なく賢く使う設備の標準装備など性能が向上し、省エネルギーに配慮されたものが一般的になっています。

——自ら生み出し、賢く使うエネルギー——

私たちのエネルギーに対する意識は大いに高まりました。

住宅や工場、公共施設などでは、必要なエネルギーは自分で創る、まさにエネルギーを自給自足しています。そして、使用を抑えながら、必要な分だけ、効率良く利用しています。

また、地域コミュニティ単位では、住宅や工場など、それぞれが創ったエネルギーの余剰分などを無駄なく賢く融通し合う社会システムが構築されています。

多種多様な「再生可能エネルギー」が安定供給され、市内のエネルギー全体に占める割合も徐々に拡大しています。これにより、災害など想定外の事態にもエネルギー供給が滞ることなく十分対応できる都市になっています。

めぐらす【巡らす】

エコ (ecological) = エコ (economical)。

——豊かな自然環境と共存する暮らし——

山、海、川、湖といった豊かな自然環境に恵まれた浜松。その豊かさは、多種多様な生物をはぐくんできました。これは浜松の貴重な財産であり、“浜松らしさ”です。また、身近な自然を大切にする意識も高まり、きれいな水と空気の中で生活できるよう市民一人ひとりが心がけています。とりわけ、佐鳴湖をはじめとした身近な水辺では水質が格段に向上し、夏場には、子どもたちが水遊びを楽しんでいます。

環境教育も進み、「環境にやさしいことはおサイフにもやさしいこと」と、「自然環境を守ることは人が生きるため絶対的に必要なこと」をすべての市民が理解し、日々の生活の中で、自然環境と共存する方法を自ら考え、行動しています。また、こうした環境に配慮した取り組みを世界に提供することで、地球環境の保全に貢献しています。

——世界が羨望する豊富な水資源——

世界と比較して我が国は雨が多く、その中でも浜松の年間降雨量は全国的に見ても多いため、水資源が豊富です。また、市域の約70%が山林で、きれいで豊富な水を産み出す条件がそろっています。山を守ることが水を守ることであり、人間も守られています。川を通じて、上流は下流のことを考え、下流は上流のことを感謝する気持ちがはぐくまれています。私たちは、水の源である山や川を大切にし、水を浪費せず、汚れた水を適切に処理しています。下水道の処理施設もコンパクト化され、浄化された水の再利用も行われています。戦略物資と言われる石油の代替はありますが、水の代わりはありません。「水>油」。水は私たちの誇りです。

——1人当たりのごみ排出量は減少——

不要物がすべてごみとは限りません。私たちの生活に3R（リデュース・リユース・リサイクル）の取り組みが定着していて、1人当たりのごみ排出量は年々減少しています。また、高度な技術力を活かして、廃電子機器から再利用できるレアメタルの回収も先進的に取り組んでいます。このため、ごみ処理施設は徐々に廃止され、施設はコンパクト化されています。

これまで、化石燃料や鉱物など資源の枯渇が課題とされてきましたが、私たちの世代はそれを使い切っていません。技術革新と協働で、環境に配慮した取り組みを向上させたからです。

つなぐ【繋ぐ】

「都会」と「田舎」。両方あって丁度良い。

——「まちなか」は、創造都市・浜松の顔——

「まちなか」は、創造都市・浜松の「顔」として栄えています。アクトシティ浜松周辺の歩道や壁面には、音響やビジュアルアートのデザインがあり、創造性豊かな文化を感じることができます。また、国際的な文化・スポーツのイベントが盛んに開催され、海外からも多くの人が訪れます。

まちなかの店舗も賑わっています。店舗同士が連携し、大規模店やネットショップと差別化することで、歩いてショッピングを楽しむエリアとして確立しており、「華やかさ」や「ワクワク感」を得ることができます。また、居住空間としても洗練されていて、多くの市民が移り住んでいます。

さらに、居住人口の拡大により公共、商業施設などの都市機能が集積し、店舗2階などの空きスペースは、ベンチャー企業の仕事場、アーティスト・デザイナーのアトリエとしても活用されています。文化、商業、居住、業務、歴史などが備わった「まちなか」は、多くの人で賑わいを見せています。

——ほどよい田舎暮らしができる「中山間地域」——

一方で、自然豊かな「中山間地域」は、命の源である水と緑を生み出す、欠かすことのできない地域であり、その価値と自然環境の大切さが認識されています。若者を中心に、地域を越えて、伝統文化を継承するサークルが立ち上がるなど、天竜川上流と下流の交流が活発化し、地域を担う若者も増えています。また、ひよんどり、おくない、田楽、歌舞伎など多彩な伝統芸能が、次世代へと脈々と引き継がれており、全国から熱い視線を集める地域となっています。これらの伝統芸能は、まちなかでも、イベントとして披露される回数が多く、観光資源としての役割を担っています。歴史的価値の高い伝統芸能は、私たち市民にとって大切な宝物です。

昔ながらの人付き合いが根付いた「中山間地域」では、豊かな自然と地域伝統が満喫できる暮らしを選択した様々な世代が流入し、新しい雇用も生まれています。「都会」と「田舎」が両方あって、緊密に結ばれている浜松。大都市圏からのアクセスも良く、幅広い年代が暮らしやすい生活スポットとなっています。

みとめあう【認め合う】

似ていない。だから、うまくいく。

——多文化共生が国際的な人財をつくる——

浜松は、外国人が多く居住する「外国人集住先進都市」であり、海外の文化と共生する術が身についています。このため、世界各国の人財も、安心して暮らす中で、それぞれの能力を発揮しています。日本人市民も外国人市民も浜松で育つ子どもたちは、質の高い教育により自らの希望に向かって、得意とする分野で成功を遂げています。

小中学校では、外国人の子どもに対しても、母国語による情報提供が行われています。コミュニケーション上の支援として、日本語や日本の生活習慣を習得する機会の提供、母国語の言語支援など、新しい外国人の受け入れ体制も充実しています。外国人の子どもたちは、日に日に文化や習慣の違いを理解し、日本人の子どもたちとも一緒になって学び、遊んでいます。一方、外国人のクラスメイトと共に成長した日本人の子どもたちは、外国人との付き合いや海外での生活を障壁に感じることはないため、全世界で活躍しており、浜松からインターナショナルな人財が輩出しています。こうした浜松出身者の活躍は、海外の都市から評価され、我が国のイメージ向上にも貢献しています。

——心の国境を感じさせない都市——

地域コミュニティの場では、日本人市民と外国人市民が一緒になって、自治会活動をはじめ、地域のお祭りや清掃ボランティアなどの様々な活動に参加しています。また、海外の文化を取り入れた新しいイベントなどが生まれています。お互いの文化を教え合う教室なども共同運営されることにより、相互の習慣の違いを受け入れる優しさや、外国人市民が日本の決まりを尊重する考え方が定着し、言語や文化の違いに起因するトラブルはありません。

また、ブラジル総領事館をはじめ、ビザの発行の相談ができる窓口など、様々な国籍に対応できるサポートが充実しており、多くの外国人市民が、住みやすさを実感しています。国境を感じさせない都市として、あらゆる市民が創造性を発揮できる社会をつくり上げています。

ささえあう【支え合う】

安心で選ばれる。安全だから選ばれる。

——支え合いがあるから安心——

地域社会全体で支え合い、だれもが穏やかに安心して生活を送ることができるから、浜松は住みやすいまちとして選ばれています。学校や診療所、薬局、店舗などが、防災や防犯の相談窓口となっており、だれもが気軽に利用することができます。

また、地域のコミュニティや企業などが連携した地域の見守り体制などにより安全・安心なまちづくりに取り組んでいます。

防災や防犯に関する市民の意識も高く、家庭・学校・地域コミュニティで質の高い防災訓練などが実施されています。すべての市民が「自分の身は自分で守る」意識を共有し、大規模災害に備えています。また、市民の安全と安心を守る遠州灘海岸の防潮堤は、ジョギングやウォーキングにも活用され、多くの市民に愛されています。

安全と安心を感じる中で、笑顔が生まれている。その理由は、地域における支え合いなのです。

——つながりがあるから安心——

デイサービスなどの福祉施設では、65歳以上の市民がボランティアとして元気に活躍し、利用者の話し相手や清掃活動をサポートしています。介護施設は、保育所などと併設されていて、子どもたちとの交流によって、いつも笑顔が絶えません。在宅での介護や、障がいがあり生活支援を必要とする人には、地域の資源が大いに活用されています。

行政やボランティアなどの支援体制によって、住みなれた地域で安心して暮らし続けることができ、介護する家族に対しても、生活の質を向上させています。

——充実した医療体制だから安心——

医療体制は、我が国の手本となっています。受け入れ患者の症状によって、救急医療の役割を分担しているほか、診療所で初期診療を行い、専門的な検査・手術や入院を要するものは総合病院で対応するなど、医療機関同士の連携が進んでいます。相互連携による質の高い医療の提供は、不測の事態であっても安心感があります。

また、病気にかからないための予防の重要性が認識されています。栄養・食生活、運動、休養などの視点から健康づくりに取り組みやすい環境が整備され、生活習慣病予防など健康に関心を持ち続ける意識が浸透しています。

はぐくむ【育む】

子どもは将来を担う地域の宝。

みんなで愛情を注ぐ。

——子育ての達成感を地域でシェア——

浜松では、子育ての苦労も楽しみも地域でシェアしています。

子育てに関する悩みがあっても、近所に住む「じいじ」、「ばあば」に気軽に相談でき、子育てのノウハウを持つボランティアもサポートしてくれます。子育てに関する知識が世代間で伝承され、一人で悩み、抱え込むようなことはありません。また、地域主体の育児サークルが活発に活動しているほか、地元のお祭りやスポーツ、昔ながらの遊びを通して、地域ごとに特色のある子育て方法も生まれています。

——地域の見守りで出生率は上向き——

勤め先では、育児休暇の取得は当たり前になっており、社会全体で子育てを重視した働き方を推進しています。このため、出産・育児を理由に仕事を辞める人は減り、女性の社会進出はさらに進みました。

浜松の子どもは、みんなで育てる。子どもは将来を担う地域の宝といった意識が一人ひとりに浸透し、保護者や地域が一体となって愛情を注いでいます。このため、子どもたちは、「自分は大切な存在である」と感じ、人間力や社会性など、社会に出る上での必要なスキルを身につけています。

不安なく子育てできる浜松では、合計特殊出生率が徐々に高まっています。

——世界に誇る浜松育ち——

学校では、すべての子どもたちが笑顔で平等に学ぶことができます。基礎学力を身につけながら、子ども同士も互いの個性を認め合って、楽しく学校生活を送っています。また、子どもたちは自分に合った学びを選択することもできます。理数や語学、芸術、スポーツなどの素質を早くから見つけ、子どもたちの才能を伸ばす教育も盛んに行われています。

さらに、学力向上だけでなく、生きる力をはぐくむことに力を入れています。コミュニケーション能力や表現力などの人間力の向上が図られ、自立した人間の形成に役立っています。

家庭、地域、企業、学校が連携して一人ひとりの子どもに関わり、子どもたちは地域社会の一員としてはぐくまれています。浜松の子どもたちは、自分のため、地域のため、国のため、そして世界のため、「世界に誇る浜松育ち」として個性を伸ばしています。

子育てに不安はありません。これは、地域のみんなで子どもたちに愛情を注ぎ、子育て世代を見守ってきたからです。

みのもる【実る】

若きに引き継ぐ、カッコいい老い方。

——自分らしく自立したカッコいい老い方——

市民の5人に2人が65歳以上。とはいえ、もはや「高齢者」とは呼ばれていません。浜松の健康寿命は、生活習慣病の予防や医療の発達により更に向上し、65歳以上の市民が活躍できる時間は20年以上もあります。定年制度を撤廃する企業も増え、働き続けながら、経済的に自立しています。その中で、若い世代に学術や技術、社会で生きる術を伝承し、将来を後世に託しています。まちなかに生活に便利な住宅が用意される一方で、住まいを自然豊かな中山間地域に移し、晴耕雨読の毎日を楽しむ人もいて、住みたいところで暮らし、健康で自分らしく生きる「カッコいい老い方」が一般的です。

人口の約4割を占めますから、世の中の中心的存在になっています。買い物や旅行など、消費を活発化させる重要な対象であり、企業でも、高齢の世代をターゲットとした商品開発に余念がありません。

——いつまでも快適で質の高い生活を——

地域では、予防に重点を置いた生活指導を充実させています。たとえ病気になったとしても、地域社会に見守られている安心感があり、自らの症状を受け入れ、望みを持ちながら生活の質を高める努力をしています。また、食材の調達・食事の用意を支援する技術が確立するとともに、歩行や普段の行動を補助するロボットスーツも市販されており、自分らしい生活を送ることができます。こうした技術は、世界中で好評を博し、海外に輸出されています。

ユニバーサルデザインへの理解が増してきました。施設や道路などの環境整備や生活用品などにユニバーサルデザインが取り入れられ、生活支援などのサービス情報をワンストップで提供するコーディネート機関も地域にあり、安心して快適に暮らすことができます。

「心のユニバーサルデザイン」が一人ひとりに浸透し、地域で暮らすすべての人が、互いの個性や立場を理解し尊重して、助け合いながら暮らしています。

——長寿が喜ばれる世の中へ——

また、一人暮らし世帯の数は、増加傾向にあります。家族と近居したり、知り合いと同居したりする人が増えています。地域コミュニティの場の中で互いに関わりを持ちながら生活しているため、大規模な災害が起こったとしても、孤立してしまうようなことはありません。

いくつになっても、ボランティアなどの社会貢献をはじめ、スポーツや絵画、資格の取得などに挑戦し、適度な緊張感を持って輝き続けています。だれもが好きなことに夢中です。人生の達人は、企業にも地域にも必要とされ、若い世代に技と知恵を授けています。

はたらく【働く】

「やってみたい」を自由にチャレンジ。

——働くことにチャレンジ——

働きたい人が働きたい仕事に自由にチャレンジできる。それは、国籍、性別、年齢、障害の有無などには関係なく、すべての人に平等です。

働くことによって、ほとんどの人が生活の糧を得ていますが、たとえ無償の仕事であったとしても、生きている実感を味わい、社会の中で自分の居場所を見つけることができた人も少なくありません。また、会社勤めが主流ではなくなり、自らの目標を実現するため、新たに起業する人も増えています。

——働くことをサポート——

一方で、企業では、労働者の生活環境やライフスタイルに合わせて、仕事量の増減を自由に行うことができます。求職の際は、身近なところに就業のためのコンシェルジュ的な役割を果たす人がおり、暮らしに合わせた満足度の高い仕事を供給できるように配慮されています。さらに、そこでは、就業のコーディネーターだけでなく、様々な事情を抱え、働きたくても働けない人のサポートも行っています。また、転職についても、積極的にチャレンジできる環境が整備されていて、自分のやりたい仕事や適性にあった仕事を選択することができます。

——働きやすい環境を整備——

雇用の掘り起こしや働きやすい環境が整備され、高齢世代、女性、障がいのある人、外国人の働く場が拡大するとともに、定年の廃止や延長によって人口減少、少子高齢化による労働力不足の懸念は、解消されています。また、託児施設の充実などにより、子育て世代が働くことを社会で支えています。企業では、育児休暇制度を充実させ、休暇後の職場復帰も積極的に推進しており、子育てのために仕事を辞める必要はありません。短時間労働や在宅勤務が可能となり、ワーク・ライフ・バランスの充実が図られ、子育てや介護、趣味、地域貢献、ボランティア活動などに精を出す人が増えています。また、NPO 法人などの非営利組織も魅力ある就労先の一つとなっています。

かえる【変える】

ま ち 都市だって、スリムになりたい。

——住まい方を変える——

浜松では、土地や家屋が一生の財産であるとした考え方が見直されています。ライフステージに応じて、都市部から中山間地域まで最適な場所を選択し、生活を楽しんでいます。かつての空き家が大いに活用され、ユニバーサルデザインや省エネルギーに配慮した住宅として、リフォームされています。また、子どもの独立を機に戸建て住宅を売りに出し、コンパクトサイズのマンションへ転居する世帯も増えています。一方で、子育て世代が、売りに出された戸建て住宅に移り住むといったサイクルが形成されています。これにより、同一世代が一定の地域に集まることが少なくなり、地域で世代を越えた交流が進んでいます。

——居住エリアを変える——

拡大していた居住地は地域の拠点に集約傾向にあり、人口密度の高い地域は一層高まり、居住地域と農業や工業を営む生産する地域とのメリハリが明確についています。これにより、土地や家屋の流動化が進み、空き家や空き地は減少し、住宅団地などの一団の開発はほとんどありません。一方、生産する地域では農地の集約や企業の集積が進むなど、生産性が高まっています。

——乗り方を変える——

移動手段は、電車やバスなどに加え、地域や企業などが所有する乗り物をシェアし、乗り合いながら利用しているため、渋滞は緩和されています。個人で自家用車を持ち、運転を楽しむ方もいますが、安全性能が高く、環境への負荷が少ない乗り物がほとんどです。市街地での移動手段は、徒歩を中心としています。エコな一人用の乗り物もあります。道路は、歩道と車道が明確に区分され、交通事故は減少しています。また、居住地の集約によって、不要となった道路は廃止され、他の用途に活用されています。

——公共施設を変える——

公共施設についても考え方が見直されました。点在していた公共施設の機能を1つの建物に集約したり、図書館だった施設に民間事業者が運営する映画館やカフェを併設したり、多様な機能を併せ持つ施設が整備されています。また、美術館が、休日には結婚式場、夜にはディナー会場になるなど、様々な用途として柔軟に活用されています。民間事業者やNPO法人などが運営母体となり、使い勝手の良い施設として、質の高いサービスを提供しています。

むすぶ【結ぶ】

もはや遠距離は、妨げではない。

——働き方に ICT——

ICT の向上は目覚しく、私たちの生活の細部に浸透しています。インターネット端末は、使いやすい機能性を備え、より身近なものとなり、だれもが賢く利用しています。

働き方が大きく変わりました。Web 会議などが主流になっており、仕事のために移動することは、月に数回程度。それ以外は、ほとんど自室で対応しています。また、商店や小さな工場などは、インターネットを利用して世界を相手にビジネスを広げています。こうした生活は場所を選ばないことから、中山間地域の空き家をリノベーションしてオフィス兼住宅とするなど、自分の居場所を選択できるようになっています。勤務時間の概念がなくなり、自分の時間を活用できています。

——学び方に ICT——

児童・生徒はそれぞれインターネット端末を所有しています。電子黒板の活用により、授業の様子をインターネット端末で復習することもできます。また、緊急連絡の受信や位置情報の配信にも利用され、防犯対策も万全です。

ICT の普及とともに、情報倫理の浸透とセキュリティの強化が進んでいます。学校をはじめ、社会においても、情報を正しく評価・識別するメディアリテラシーを教えています。また、溢れる情報を必要な時に正しく使うため、メディアに依存しすぎないアウトメディアに対する考え方も身につけるよう指導しています。

——暮らしに ICT——

浜松が抱える膨大なインフラの維持に関しては、センサーにより遠隔管理する技術をいち早く取り入れているほか、市役所での手続きも電子化が進み、庁舎まで出向かなくてもインターネットでほとんど対応できます。また、医療に関しても、電子カルテによるデータ管理や遠隔診療、仮想内視鏡などの ICT 技術が日々向上しており、患者に対する利便性の向上や負担の軽減に役立っています。

——遊びに ICT——

観光面では、交流人口を拡大させるため、豊かな自然や貴重な文化資源などの浜松の魅力を世界に発信しています。また、観光スポットにも公衆無線 LAN が整備され、インターネット端末を快適に使うことができます。さらに、仮想現実を活用して、テーマに応じた観光情報を配信するアプリは無数に普及しており、海外の観光客にも分かりやすく情報発信しています。

私たちは、情報通信技術を賢く活用し、生活の豊かさにつなげています。



浜松市

浜松市未来ビジョン

発行：浜松市

編集：浜松市企画調整部企画課

浜松市総合計画 基本計画

浜松市未来ビジョン 第1次推進プラン

(案)

目次

1 未来ビジョン（基本構想）を受けて	1
2 都市経営の考え方	2
① 市民協働で高める地域力	2
② 未来まで続く持続可能なまち	3
③ 未知の感動を生み出す創造都市	3
④ 想定外にも対応できる自立・自律したまち	4
⑤ 世界とツナグ・地域とツナグ	4
3 まちづくりの基本的な考え方	5
4 分野別計画	7
分野別計画の構成	8
① 産業経済	9
② 子育て・教育	13
③ 安全・安心・快適	17
④ 環境・エネルギー	21
⑤ 健康・福祉	25
⑥ 文化・生涯学習	29
⑦ 地方自治・都市経営	31
◆ 政策体系	35

1 未来ビジョン（基本構想）を受けて

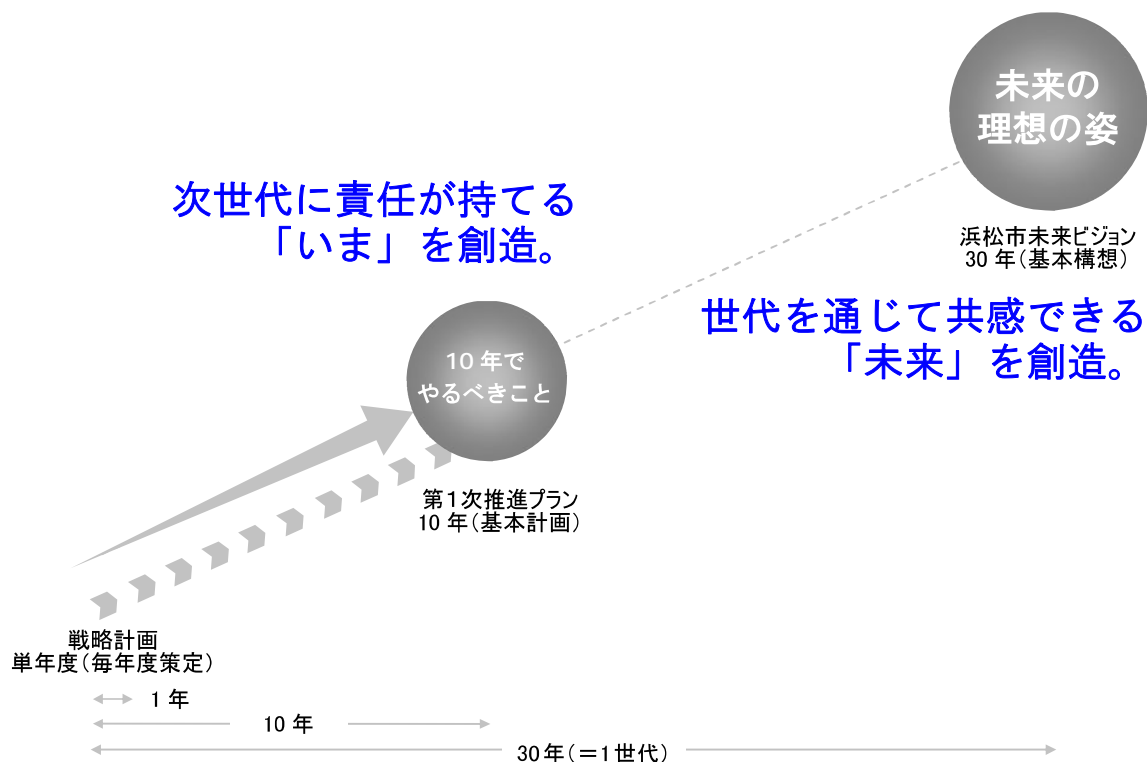
人口減少・超高齢社会など、未知の環境に立ち向かうため、新たな手法として、バックカスティング*方式を取り入れました。

未来ビジョンでは、世代を通じて共感できる「未来」を創造するために、一世代(=30年)先を未来の理想の姿として、「都市の将来像」と「1ダースの未来」を定めました。

第1次推進プラン（基本計画）では、未来ビジョンの実現に向けて、長期的な展望に立ち、「今、行政は何を行うべきか」「今、市民にできることは何か」を考え、次世代に責任が持てる「いま」を創造し、平成27年度から平成36年度までの10年間の総合的な政策を定めています。

また、第1次推進プランに掲げた10年後の姿を達成するため、事業実施の核となる戦略計画を毎年度作成し、計画的な進捗管理を進めます。

将来にわたって、市民が幸せに暮らし、豊かさを実感できるように、新たな挑戦をスタートさせます。



* バックカスティング：目標となる将来の理想の姿を想定し、その姿から現在を振り返り、今すべきことを定める考え方。

2 都市経営の考え方

市域を見渡せば、海、川、湖、山などの豊かな自然環境に恵まれ、沿岸部や都市部、中山間地域の多様性を有する「国土縮図型」の政令指定都市を実感することができます。地域の多様性は、本市の強みとして、特色のある産業や伝統文化などをはぐくんできました。

一方、広大な市域の中には、政令指定都市で最も長い道路延長や多くの公共施設が存在します。これらの維持更新のためには莫大な費用を必要とするなど、新たな課題も抱えています。

地域の持続的な発展のためには、行政資源や地域資源を効果的に組み合わせ、これらの課題の機先を制し、課題解決の先進都市を目指した都市経営が求められます。

このため、都市の将来像の実現に向け、すべての政策・事業を進める上での重要な考え方として、次の5項目を位置付けます。

① 市民協働で高める地域力

すべての市民が住み慣れた地域で充実した生活を続けるためには、行政だけでなく、市民、市民活動団体、企業などがまちづくりの主役として、各自の役割を果たすとともに、それぞれの主体が協働により、お互いを補い、支え合い、相乗効果を生み出していくことが不可欠です。

このため、行政情報の積極的な提供を行うとともに、情報の共有などによる各主体との協力・連携体制を築くことで互いの信頼関係を強化します。最終的には、行政が持つ権限や意思決定などの役割分担も視野に入れ、市民などが主体となって地域の課題を解決する地域力を高めていきます。

② 未来まで続く持続可能なまち

ヒト・モノ・カネ（地域経済）の最適な循環が持続可能な発展につながります。

ヒトの循環では、子どもや子育て世代への支援、ワーク・ライフ・バランス^{*}の推進、都市の魅力創出などにより、出生率の増加、年少・生産年齢人口の拡大を目指し、人口構成の最適化を図ります。

モノの循環では、ゴミの分別や廃電子機器からのレアメタル^{*}の回収など、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の取り組みを、生活面、産業面などあらゆる分野で進めます。また、市民生活や産業活動を支えるエネルギーを持続的・安定的に確保するため、恵まれた自然環境を活かした再生可能エネルギーの利用を推進します。

カネ（地域経済）の循環では、既存産業の高度化や経営革新、新産業の創出、ベンチャー企業の創業などの支援による雇用創出を推進します。また、新たなビジネスチャンスの獲得を目指した企業への海外展開支援などを進め、地域経済が潤う仕組みを構築します。

さらに、地域の課題を解決するため、ソーシャルビジネス^{*}やコミュニティビジネス^{*}を、NPO^{*}をはじめとした市民活動団体などが営む環境を整えます。

最適な循環を生み出すことで未来まで続く、持続可能なまちづくりを進めます。

③ 未知の感動を生み出す創造都市

何事にも積極果敢な進取の気風である「やらまいか精神」^{*}、異なる文化を受け入れる寛容な市民性が、多様性に富んだ人財をはぐくみ、世界的な「ものづくり」のまちとして、発展を遂げてきました。

本市の強みである「寛容性」や「ものづくり」の伝統を未来に引き継ぎ、市民や企業の創造的な活動により、産業の創出、地域の教育や福祉への貢献など、すべての分野で新たな価値が次々に生まれるまちづくりを進めます。

すべての市民が互いに創造性を刺激し合い、常に新しい取り組みにチャレンジすることで、未知の感動を生みだす、創造都市^{*}・浜松の実現を目指します。

^{*} ワーク・ライフ・バランス：一人ひとりがそれぞれの希望に応じて、仕事とそれ以外のこと（家庭や地域活動など）のどちらも大切にできるライフスタイルで、両方にやりがいや充実感を感じられる状態のこと。

^{*} レアメタル：産出量が少ない稀少金属のこと。

^{*} ソーシャルビジネス：社会的課題の解決を図るための取り組みを事業として展開するもの。

^{*} コミュニティビジネス：地域の住民を中心とした組織などが生活者の需要に対して、展開する事業で社会奉仕的な要素を持つ。

^{*} NPO：Non-Profit Organization（非営利組織）。市民が主体的に社会活動に取り組む非営利の民間組織。

^{*} やらまいか精神：遠州（浜松）地方の方言で「やってみよう」「やろうじゃないか」の意味を持ち、何事にも前向きに取り組む気性を表す。

^{*} 創造都市：地域固有の文化や資源を活かした創造的な活動が活発に行われ、その活動が新しい価値や文化、産業の創出につながり、市民の暮らしの質や豊かさを高めていく都市。

④ 想定外にも対応できる自立・自律したまち

地震・津波の災害、感染症のまん延など、有事に対する備えを怠らないことで、想定外にも対応することができます。環境変化にしなやかに対応する、打たれ強い都市を目指し、安全・安心を実感できるまちづくりに取り組みます。

また、選択と集中による経営資源の有効活用など、自らを律する「自律」により、不断の行財政改革に取り組み、都市経営の基盤を強化することで、いかなる環境変化にも対応して、市民サービスの質と量を確保します。

さらに、道州制の導入をはじめ、地方の姿が大きく変わろうとしている中、地方自治のあるべき姿に向けて、自立した基礎自治体である“特別自治市^{*}”の実現を目指します。

⑤ 世界とツナグ・地域とツナグ

情報通信技術、交通機関の発達により、ヒト・モノ・カネ・情報の急速なボーダーレス化^{*}が進展しています。世界の都市との連携を強化し、本市の特徴や強みを活かした国際戦略を進めることで「Hamamatsu」の都市ブランドを高め、企業の海外展開、海外からの企業誘致、文化・芸術・産業などの融合による創造都市の実現などにより、世界の活力を地域に取り込みます。

国内では、政令指定都市や三遠南信地域内の各自治体との連携を強化し、防災、観光、産業などの広域的な課題に対応します。また、市内では、都市部と中山間地域との交流を促進して、地域内の活性化を図ります。

世界・地域をツナグことで、本市の強みである自然や産業、文化などの多様性を活かした取り組みを進めて、未来への架け橋を築きます。

^{*}ボーダーレス化：国籍や国境などが意味をなさないほど、国際的に広がっていること。

3 まちづくりの基本的な考え方

コンパクトでメリハリの効いたまちづくり

市民が居住するエリアを、公共交通の結節点や道路・鉄道の沿線に集約します。これらの居住エリアは、農業や工業などの産業を振興するエリアと、自然環境を保全するエリアとを明確に区分し、人口密度にメリハリをつけた拠点ネットワーク型都市構造を目指します。







人口密度を高めることにより、店舗や病院などの民間活力を誘発し、便利で快適なまちへと移り変わる好循環を生み出します。また、道路や上下水道などの公共インフラについても見直しを進め、人口規模に応じた最適化を図ります。

また、中山間地域においては、田舎暮らしを推進するとともに、交通ネットワークの強化によって都市部との交流を促進します。

『コンパクトでメリハリの効いたまちづくり』を基本的な考え方として、持続可能な最適化されたまちを市民とともに目指します。

「まち」を4つ（①都心部／②市街地／③郊外地／④中山間地域）に区分し、それぞれの「まち」に応じた将来の理想の姿（基本的な考え方）を示します。

イメージ図

凡 例	
	都心
	生活拠点など
	居住エリア
	工場用地など
	公共交通などのネットワーク
	集約イメージ

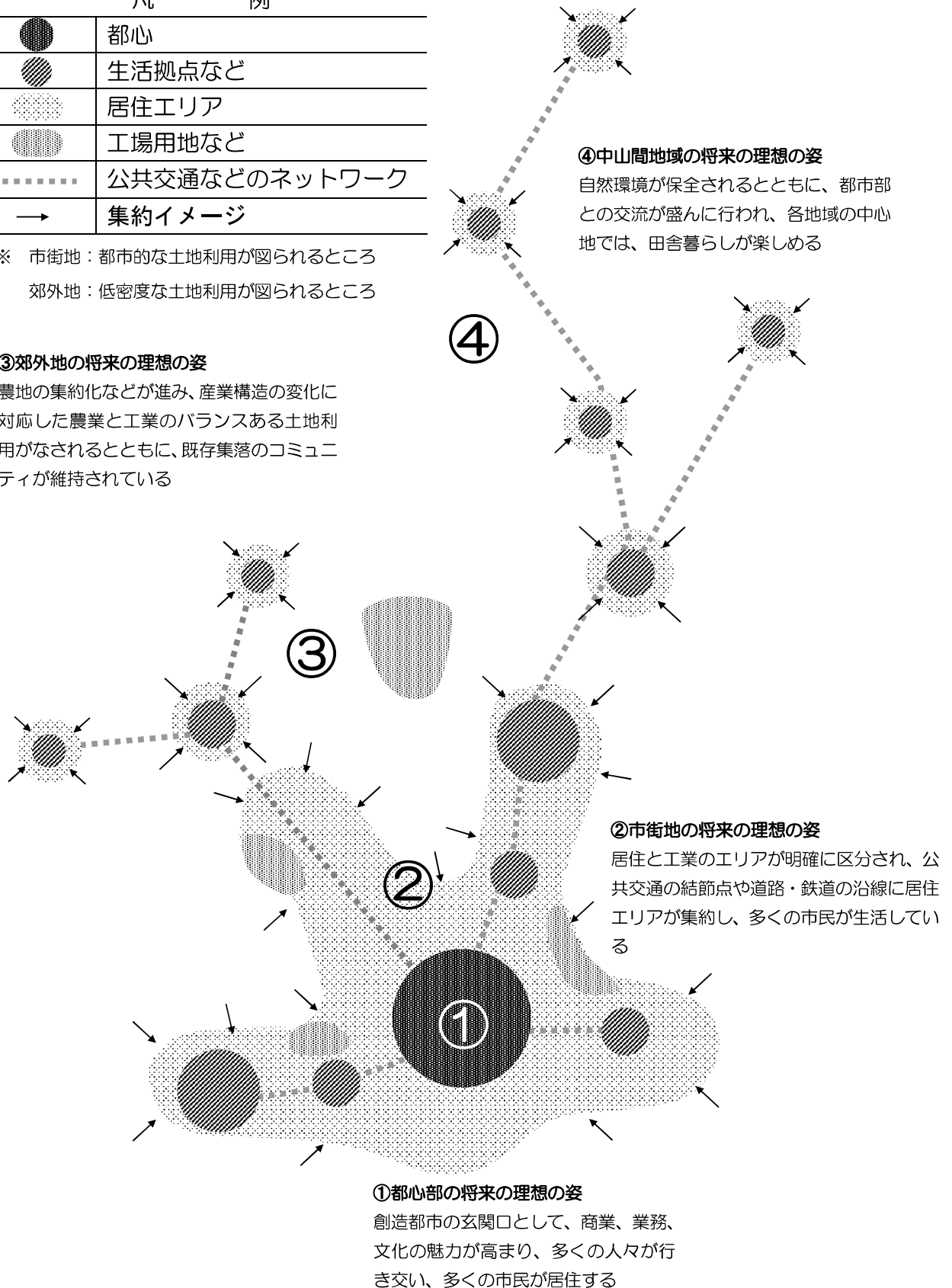
※ 市街地：都市的な土地利用が図られるところ
 郊外地：低密度な土地利用が図られるところ

③郊外地の将来の理想の姿

農地の集約化などが進み、産業構造の変化に対応した農業と工業のバランスある土地利用がなされるとともに、既存集落のコミュニティが維持されている

④中山間地域の将来の理想の姿

自然環境が保全されるとともに、都市部との交流が盛んに行われ、各地域の中心地では、田舎暮らしが楽しめる



4 分野別計画

- ①産業経済
- ②子育て・教育
- ③安全・安心・快適
- ④環境・エネルギー
- ⑤健康・福祉
- ⑥文化・生涯学習
- ⑦地方自治・都市経営

分野別計画の構成

